

1. 平成20年度に機構が実施した大学機関別認証評価について

1 評価の目的

独立行政法人大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）は、国・公・私立大学からの求めに応じて、大学（短期大学を除く。）の教育研究活動等の総合的な状況に関する評価（以下「大学機関別認証評価」という。）を、平成17年度から実施しました。この認証評価は、我が国の大学の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資するよう、以下のことを目的として行いました。

- (1) 大学機関別認証評価に関して、機構が定める大学評価基準（以下「大学評価基準」という。）に基づいて、大学を定期的に評価することにより、大学の教育研究活動等の質を保証すること。
- (2) 評価結果を各大学にフィードバックすることにより、各大学の教育研究活動等の改善に役立てること。
- (3) 大学の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として大学が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

2 評価の実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立大学の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる大学機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象大学の状況に応じた評価部会を編成し、評価を実施しました。

評価部会には、各大学の教育分野やその状況が多様であることなどを勘案し、対象大学の学部等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置しました。

3 評価プロセスの概要

※ 評価は、概ね以下のようなプロセスにより実施しました。

(1) 大学における自己評価

各大学は、「自己評価実施要項」に従って、自己評価を実施し、自己評価書を作成しました。

(2) 機構における評価

- ① 基準ごとに、自己評価の状況を踏まえ、大学全体としてその基準を満たしているかどうかの判断を行い、理由を明らかにしました。

なお、基準の多くが、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点を設定されていますが、基準を満たしているかどうかの判断は、その個々の内容ごとに行うのではなく「基本的な観点」の分析状況を総合した上で、基準ごとに行いました。

- ② 基準を満たしているが、改善の必要が認められる場合や、基準を満たしているもののうち、その取組が優れていると判断される場合には、その旨の指摘も行いました。
- ③ 大学全体として、全ての基準を満たしている場合に、機関としての大学が当機構の大学評価基準を満たしていると認め、その旨を公表しました。（一つでも満たしていない基準があれば、大学全体として大学評価基準を満たしていないものとして、その旨を公表することとしています。）

4 評価方法

評価は、書面調査及び訪問調査により実施しました。書面調査は、評価実施手引書に基づき、各大学が作成した自己評価書（大学の自己評価で根拠として提出された資料・データ等を含む。）の分析、及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて実施しました。訪問調査は、訪問調査実施要項に基づき、書面調査では確認できなかった事項等を中心に調査を実施しました。

5 評価のスケジュール

- (1) 機構は、平成 19 年 5 月に、国・公・私立大学の関係者に対し、大学機関別認証評価の仕組み、方法などについて説明会を実施しました。
- (2) 機構は、平成 19 年 7 月から 9 月にかけて、以下の 11 大学の申請を受け、評価を実施することとなりました。
 - 国立大学（4 大学）
宇都宮大学、東京海洋大学、京都工芸繊維大学、神戸大学
 - 公立大学（5 大学）
国際教養大学、神奈川県立保健福祉大学、大阪市立大学、尾道大学、宮崎県立看護大学
 - 私立大学（2 大学）
日本社会事業大学、光産業創成大学院大学
- (3) 機構は、平成 20 年 2 月から 3 月にかけて、対象大学の自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載などについて説明を行うなどの研修を実施しました。
- (4) 機構は、平成 20 年 6 月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、大学評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施しました。
- (5) 機構は、平成 20 年 6 月末に、対象大学から自己評価書の提出を受けました。

※自己評価書提出後の対象大学の評価は、次のとおり実施しました。

7 月	書面調査の実施 財務専門部会の開催（書面調査の基本的な進め方の確認等）
8 月	評価部会、財務専門部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定） 運営小委員会の開催（各評価部会間の横断的な事項の調整）
10 月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象大学の状況を調査）
12 月	運営小委員会、評価部会、財務専門部会の開催（評価結果（原案）の作成）

- (6) 機構は、これらの調査結果を踏まえ、平成 21 年 1 月に評価委員会で評価結果（案）を決定しました。

(7) 機構は、評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成 21 年 3 月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定しました。

6 評価結果

平成 20 年度に認証評価を実施した 11 大学のすべてが、機構の定める大学評価基準を満たしているとの評価結果となりました。

7 大学機関別認証評価委員会委員及び専門委員（平成21年3月現在）

(1) 大学機関別認証評価委員会

赤岩英夫	前群馬大学長
鮎川恭三	前愛媛大学長
池端雪浦	前東京外国語大学長
江上節子	東日本旅客鉄道株式会社顧問
尾池和夫	前京都大学総長
大塚雄作	京都大学教授
岡本靖正	前東京学芸大学長
荻上紘一	大学評価・学位授与機構教授
梶谷誠	電気通信大学長
金川克子	前石川県立看護大学長
北原保雄	前筑波大学長
○小出忠孝	愛知学院大学長
河野通方	大学評価・学位授与機構評価研究部長
児玉隆夫	学校法人帝塚山学院学院長
後藤祥子	日本女子大学長
小林俊一	秋田県立大学長
小間篤	科学技術振興機構研究主監
齋藤八重子	前東京都立九段高等学校長
佐藤東洋士	桜美林大学長
鈴木昭憲	前秋田県立大学長
永井多恵子	前日本放送協会副会長
ハンス・ユージェン・マルクス	学校法人南山学園理事長
平野眞一	名古屋大学総長
福田康一郎	医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長
森本尚武	前信州大学長
山内芳文	大学評価・学位授与機構教授
◎吉川弘之	産業技術総合研究所理事長

※ ◎は委員長、○は副委員長

(2) 大学機関別認証評価委員会運営小委員会

赤 岩 英 夫	前群馬大学長
鮎 川 恭 三	前愛媛大学長
◎荻 上 紘 一	大学評価・学位授与機構教授
金 川 克 子	前石川県立看護大学長
児 玉 隆 夫	学校法人帝塚山学院学院長、前大阪市立大学長
小 間 篤	科学技術振興機構研究主監、東京大学名誉教授

※ ◎は主査

(3) 大学機関別認証評価委員会評価部会

(第1部会)

荻 上 紘 一	大学評価・学位授与機構教授
小 林 康 夫	東京大学教授
◎小 間 篤	科学技術振興機構研究主監、東京大学名誉教授
○鈴 木 昭 憲	前秋田県立大学長、東京大学名誉教授
廣 瀬 和 子	上智大学名誉教授
堀 正 二	大阪府立成人病センター総長、大阪大学名誉教授

※ ◎は部会長、○は副部会長

(第2部会)

◎鮎 川 恭 三	前愛媛大学長
井 上 欣 三	神戸大学教授
荻 上 紘 一	大学評価・学位授与機構教授
小 林 迪 弘	名古屋大学教授
高 橋 正 征	東京大学名誉教授、高知大学名誉教授
土 屋 俊	千葉大学教授
利 島 保	県立広島大学理事、広島大学名誉教授
○平 山 健 一	JSTイノベーションサテライト岩手館長、前岩手大学長

※ ◎は部会長、○は副部会長

(第3部会)

◎赤 岩 英 夫	前群馬大学長
萩 上 紘 一	大学評価・学位授与機構教授
潮 田 資 勝	物質・材料研究機構フェロー、前北陸先端科学技術大学院大学長
蓮 見 孝	筑波大学教授
○益 田 隆 司	前電気通信大学長

※ ◎は部会長、○は副部会長

(第4部会)

伊 藤 隆 道	東京芸術大学名誉教授
内 田 勝 一	早稲田大学常任理事
萩 上 紘 一	大学評価・学位授与機構教授
◎児 玉 隆 夫	学校法人帝塚山学院学院長、前大阪市立大学長
○鈴 木 典比古	国際基督教大学長
服 部 幸 造	元名古屋市立大学教授

※ ◎は部会長、○は副部会長

(第5部会)

上野谷 加代子	同志社大学教授
萩 上 紘 一	大学評価・学位授与機構教授
◎金 川 克 子	前石川県立看護大学長
久保田 紀久枝	お茶の水女子大学教授
蜂須賀 研 二	産業医科大学教授
○前 原 澄 子	京都橘大学看護学部長、元三重県立看護大学長
南 裕 子	近大姫路大学長
○森 正 夫	公立大学協会相談役、前愛知県立大学長
山 縣 文 治	大阪市立大学教授

※ ◎は部会長、○は副部会長

(4) 大学機関別認証評価委員会財務専門部会

赤 岩 英 夫	前群馬大学長
清 水 秀 雄	公認会計士、税理士
○佐 藤 東洋士	桜美林大学長
◎和 田 義 博	公認会計士、税理士

※ ◎は部会長、○は副部会長